

マーケットレポート

# 7月の振り返りと8月の注目ポイント

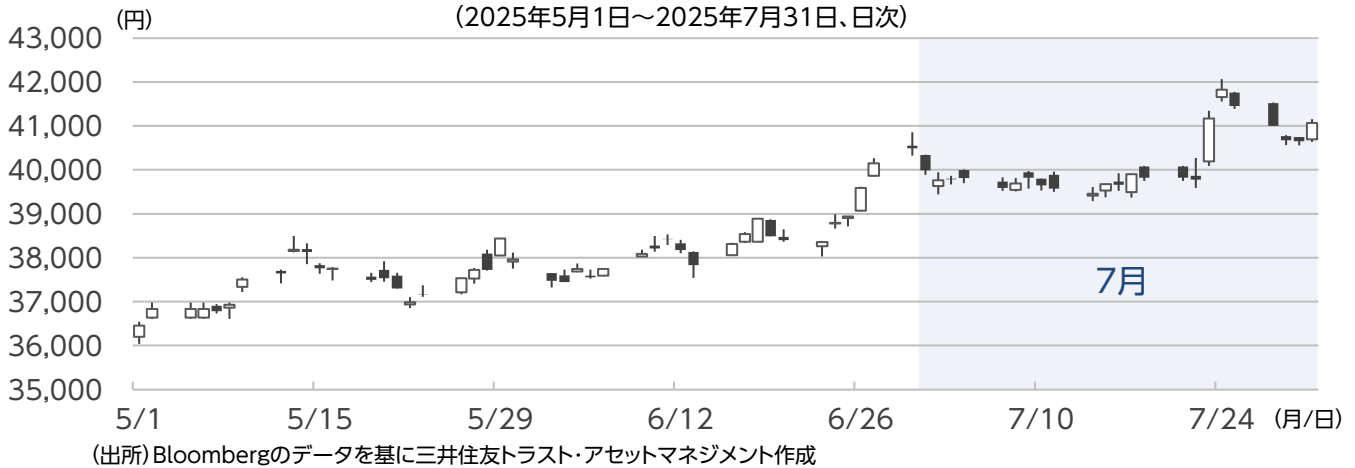
～石破首相の進退やジャクソンホール会合に関心か～

## ◆7月の日経平均株価は4万円台で推移

日経平均株価は上昇しました。月前半は、短期的な過熱感を警戒した利益確定の売りが出たほか、米国の関税政策への懸念を背景に、上値の重い値動きでした。また、20日投開票の参議院議員選挙を巡る不透明感等も重荷でした。月後半は、日米の関税交渉で相互関税が15%に引き下げられたことで、自動車株などの上昇が国内株式市場を押し上げました。また、参院選挙で与党の議席が過半数を下回ったことで、野党が掲げていた景気刺激的な政策が打ち出されることへの期待も高まりました。米国と主要国との貿易交渉が進展するとの観測も追い風となり一時42,000円前後に上昇する場面がありました。

### 日経平均株価の推移

(2025年5月1日～2025年7月31日、日次)



## ◆7月の為替市場は、150円台に上昇

米ドル/円は、円安・米ドル高が進行しました。月前半は、トランプ米大統領が日本に25%の関税を課すと明らかにしたことで、米国の物価上昇圧力が強まる一方、日本の景気を下押しするとの見方などから、円売り・米ドル買いが先行しました。月後半は、20日投開票の参院選挙を前にした財政悪化懸念から円が売られました。月末に、日米の金融政策決定を受けて、日米金利差の拡大が継続するとの観測が強まったことで、約4カ月ぶりに150円台に乗せました。

### 米ドル/円の推移

(2025年5月1日～2025年7月31日、日次)



## ◆当面の注目点

米国で21日から23日に、毎年恒例のジャクソンホール会合が開催されます。7月30日のFOMC(米連邦公開市場委員会)では政策金利据え置き決定に、ボウマン副議長とウォラー理事が反対しました。関税によるインフレ圧力が顕在化していないなか、今後の利下げを示唆するような情報発信があるかが注目されます。

中国では毎年恒例の北戴河会議が行われる見込みです。中国共産党の幹部や長老らが河北省の避暑地・北戴河に集まって重要課題を話し合います。習近平国家主席の失脚説がくすぶるなか、例年になく注目度が高まっています。非公式会議のため、文書の発表や記者会見などはありませんが、政策の方向性や人事に関する重大な事案が、報道などを通じてにじみ出てくるか、高い関心が注がれています。

日本では、石破首相の進退が話題になっています。7月の参院選挙で敗北し、自民党内で辞任を求める声広がったり、観測報道が出たりしたためです。他方、世論調査では「辞任すべき」との意見は「辞任の必要はない」との見解と拮抗しています。石破首相が辞任を表明すれば、金融市場では、次期首相の人選やその政策スタンスを巡って様々な見方が交錯することになりそうです。

### 今後予定される主なイベント

|    |     |                 |    |     |                   |
|----|-----|-----------------|----|-----|-------------------|
| 8月 | 1日  | 臨時国会召集          | 8月 | 15日 | 終戦の日。戦後80年        |
|    | 1日  | 米7月雇用統計         |    | 15日 | 日本4-6月期GDP(国内総生産) |
|    | 7日  | 米相互関税がスタート      |    | 21日 | ジャクソンホール会合(~8/23) |
|    | 7日  | トヨタ自動車決算        |    | 22日 | 全国CPI             |
|    | 8日  | 自民党両院議員総会       |    | 27日 | エヌビディア決算          |
|    | 上旬か | 中国北戴河会議         |    | 28日 | 中川日銀審議委員、講演・会見    |
|    | 12日 | 米7月CPI(消費者物価指数) |    | 月末  | 26年度予算概算要求締め切り    |

(出所)各種資料を基に三井住友トラスト・アセットマネジメント作成

## ◆今後の見通し

国内株式市場は、高値圏で推移していることから利益確定の売りなどが意識されるものの、財政拡張への期待などの思惑が支えとなりそうです。

米国株式市場は、比較的堅調な米経済やFRB(米連邦準備理事会)の年内利下げ観測を背景に、底堅く推移すると想定します。米国と各国の関税交渉の進展にも注目が集まりそうです。

為替市場は、米ドルはFRBの年内利下げの有無、円は日銀の年内追加利上げ観測に左右されるとみられます。

### 当面のマーケット予想(2026年6月末)

|            |                    |
|------------|--------------------|
| 日経平均株価     | 38,000 ~ 44,000円   |
| 日本10年国債利回り | 1.25 ~ 2.00%       |
| NYダウ       | 42,000 ~ 48,000米ドル |
| 米国10年国債利回り | 3.50 ~ 4.50%       |
| 米ドル/円      | 130 ~ 150円         |

※上記は資料作成時点の見通しであり、今後変更となる可能性があります

#### 【ご留意事項】

- 当資料は三井住友トラスト・アセットマネジメントが投資判断の参考となる情報提供を目的として作成したものであり、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。
- ご購入のお申込みの際は最新の投資信託説明書(交付目論見書)の内容を必ずご確認のうえ、ご自身でご判断ください。
- 投資信託は値動きのある有価証券等(外貨建資産には為替変動リスクを伴います。)に投資しますので基準価額は変動します。したがって、投資元本や利回りが保証されるものではありません。ファンドの運用による損益は全て投資者の皆様へ帰属します。
- 投資信託は預貯金や保険契約とは異なり預金保険機構および保険契約者保護機構等の保護の対象ではありません。また、証券会社以外でご購入いただいた場合は、投資者保護基金の保護の対象ではありません。
- 当資料は信頼できると判断した各種情報等に基づき作成していますが、その正確性、完全性を保証するものではありません。また、今後予告なく変更される場合があります。
- 当資料中の図表、数値、その他データについては、過去のデータに基づき作成したものであり、将来の成果を示唆あるいは保証するものではありません。
- 当資料で使用している各指数に関する著作権等の知的財産権、その他の一切の権利はそれぞれの指数の開発元もしくは公表元に帰属します。